

2009年度 事業評価結果一覧

(1) 内部評価(監査グループによる評価)

	団体名	事業概要	助成金額 (千円)	レベル	評価ポイント	上段:優れている点
	事業名			1000点満点		下段:改善すべき課題
1	(特)日本ライフセービング協会 ライフセービング活動の基盤強化および講習会の開催等	<ul style="list-style-type: none"> 全国のライフセービングクラブの組織化を図るためライフセーバーの養成支援を行う 活動する浜を増やし、水難事故の防止と海浜の安全向上を目指す 器材支援、組織化支援、講習会開催など 	13,208	II 765	<ul style="list-style-type: none"> 活動海岸数の増加(04年度:164浜⇒08年度:205浜) 年間のライフセーバー養成(目標2,600人 実績2,589人) 地元自治体、警察、消防署、保安庁との連携強化 学生の卒業に伴う活動離れへの対応 	
2	(社)日本水産資源保護協会 河川環境の基盤情報整備事業	<ul style="list-style-type: none"> 開発による環境変化の影響を受けやすい魚種であるサクラマス、ビワマス等についての、生物学的、生態学的情報、増養殖に関する研究を、中学生、高校生向けの資料にまとめ、学校に教材として配布した 	1,717	IV 550	<ul style="list-style-type: none"> 食材として、身近なサケ・マスの生態系をわかりやすく教材にまとめ、養殖魚と河川とのかかわりの大切さを生徒に気づかせている 成果物である小冊子の授業での活用度が低い(60校配布 6校で授業に活用) 	
	(財)現代人形劇センター 全国の聾学校における人形劇による地震防災教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> 聾学校の子どもたちに地震、津波に対する防災意識を持ってもらうため、地震・津波をテーマとする人形劇の公演等を聾学校105校全校において3年間で実施する 「稲むらの火」の公演(08年度:22校、09年度:42校、10年度:41校) 	9,000	II 810	<ul style="list-style-type: none"> メンバーに聴覚障害者がいるプロの人形劇団が打楽器の振動や手話通訳を交え、災害の恐ろしさを見事に伝えている 防災関係者や聾学校周辺の住民にも参加してもらえれば更によい 	
4	一般社団法人 ECネットワーク 電子商取引に関連する詐欺被害者に対する支援および詐欺被害の抑制に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> ネット上の商取引における詐欺被害の事例について、消費者相談担当者を対象に講習会を実施し、詐欺被害の抑制につなげる ネット詐欺の実例のWebでの公開など。 	4,072	III 720	<ul style="list-style-type: none"> ネット上の詐欺対策という社会ニーズに迅速に対応 ホームページへのアクセスに対する分析を強化 	

(2) 外部評価(専門の民間会社による評価)

5	(社)日本舟艇工業会 沈没小型船舶処理促進事業	<ul style="list-style-type: none"> 不法投棄された所有者不明の廃FRP船の処理責任を負う都道府県に対して、処理費用の一部を助成する 	22,200	III 690	<ul style="list-style-type: none"> '05年度以降リサイクル処理件数が増加傾向(05年度:76隻 06年度:406隻 07年度:446隻) 助成金の活用が、29道府県にとどまっていること
6	(社)日本中小型造船工業会 日本・アジア造船フォーラムの開催	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア6カ国において、造船分野での交流と関係強化を目的とした、造船フォーラムを実施する 07年度:フィリピン、タイ、08年度:ベトナム、インドネシア、09年度:マレーシア、シンガポール 	5,100	III 665	<ul style="list-style-type: none"> 双方の業界トップの参加のもと、安定的に実施されている 行政関係者も出席しており、国レベルの交流の場にもなっている 会員企業の参加が少なく、実際に取引にまでは至っていない 交流面の成果を把握しようとする取り組みが弱い
7	(社)日本海洋少年団連盟 団員拡充モデル事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴う若手指導者の育成や少子化による団員の減少などの課題解決に取り組む 全国指導者研修会、ビーチコーミング研修、帆船体験教室等の実施 	6,912	IV 565	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業の実施地区で新規団員の獲得がみられる 団員の実態把握ができていないため、事業の効果測定が不十分
8	(財)癌研究会 新治療法確立のための基礎研究	<ul style="list-style-type: none"> 抗癌剤を中心とした癌の化学療法を担当している癌化学療法センターの基礎研究事業を助成する(薬品等の消耗品の購入) 	40,000	I 860	<ul style="list-style-type: none"> 長期にわたる基礎研究に対する助成が新抗がん剤開発・実用化(予定)に向けて、重要な役割を果たした
9	ロチェスター工科大、米国立聾工科大 聴覚障害者の高等教育環境整備のための国際大学ネットワークの推進	<ul style="list-style-type: none"> 第2期事業(2006~2009)を通して米国立聾工科大学を中心とした高等教育機関の国際ネットワークを作り、ノウハウの提供を通して、各国の実情に即した聴覚障害者の大学教育の体制を確立した 	134,472	I 875	<ul style="list-style-type: none"> 第1期事業(2001~2005年度)から、目的・目標を日本財団と共有 参加国、大学数の着実な増加(6カ国14大学→10カ国18大学) 日本・ロシア・中国では政府資金が確保され自立した

※レベル … I(850~)=卓越した水準にある II(750~)=優秀な水準にある III(650~)=良好な水準だが、一部問題がある IV(550~)=一応の水準にあるが、かなりの問題がある V(~549)=多くの問題がある

2009年度 事業評価結果一覧(下期分)

(1)内部評価(監査グループによる評価)

	団体名	事業概要	助成金額 (千円)	レベル 1000点満点	評価ポイント	上段:優れている点
	事業名					下段:改善に向けた課題
1	(社)日本海事検定協会 危険物の海上運送に関する調査研究	危険物の海上運送に関する国際ルールの策定及び我が国の意見を反映させるため、IMO小委員会等への専門家の派遣や国内対応委員会等を開催する。	7,900	II 820	・少人数で効率的な事務局運営を行い、コーディネート能力を高く評価される一方、日本に大きな損失をもたらしかねない事案にも、確実な手順で迅速に対応し、成果を挙げている。 ・広報に関してはCanpanブログ等を活用しているが、専門用語等が多く、事業の成果を一般にわかりやすく伝える姿勢が望まれる。	
②	(財)熱帯海洋生態研究振興財団 サンゴ礁の保全と回復をめざしたサンゴ造園技術の開発と普及	阿嘉島臨海研究所(沖縄県座間味村)とその周辺地域の定点にて、定期的なモニタリング調査、サンゴ造園技術の開発、サンゴ礁保全のための地域コミュニティへの啓蒙活動と人材育成を行う。	12,800	I 875	・世界初の、有性生殖によるサンゴの完全養殖に成功したこと。 ・水産庁の、沖ノ鳥島へのサンゴ移植プロジェクトに参加し、養殖技術を使った実証実験を行っていること。 ・学術論文等で、研究成果を海外にも更に発信していくことが望まれる。	
③	(財)がんの子供を守る会 小児がん児童・家族への慰問活動事業	小児がんや難病により長期入院を余儀なくされる子供たちやその家族のメンタルケアやコミュニケーション支援を目的として、人気キャラクターショーや人形劇等により慰問(各地病院10カ所)する。	3,200	III 745	・本事業のアトラクションを体験することによって、小児がんで入院している患児に生きる希望を与え大きな成果を与えている。 ・訪問活動を受け入れる病院の開拓を通し、活動拠点としての支部発足の動きを促進させることが望まれる。	
4	(社)日本筋ジストロフィー協会 筋ジストロフィー児・者の訓練指導及び在宅支援	病気の進行を抑制し、ハンディキャップを減少させ、社会の一員として生きる喜びを持たせるためパソコン、七宝焼き、はり絵、手芸等の訓練指導をおこなうとともに、専門指導員による在宅者への訪問調査及び療育研修会育研修会等を開催する。	6,000		本事業の事業評価については、再調査が必要になったことから評価期間を延長し、次回の報告といたします。	

(2)外部評価(専門の民間会社による評価)

5	(財)日本船舶技術研究協会 船舶関係諸基準に関する調査研究	船舶の安全及び保安の確保並びに海洋環境等の保護に関して、船舶に対する適切な諸基準を策定するために、船舶の構造、性能及び設備並びに運航等について調査研究等を実施する。	178,300	II 780	・本事業により、IMOに対する提案文書数は日本が最も多くなっているようであり、条約改正や、ガイドライン、マニュアル等にも取り入れられている。 ・日本一国ではなく、韓国・中国を含めて、IMOの場におけるアジアの発信力を強化していくことが望まれる。
6	(財)日本科学協会 教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施	日本国内で収集した図書を中国の24大学・1研究機関に寄贈し(150,000冊)、日中間の相互理解の深化及び友好関係の構築を図る。	85,000	II 830	・2008年までに累計200万冊超の図書を効率的に寄贈してきたことにより、参加大学の日本への理解の深化・友好の向上に貢献した。 ・中国における本プロジェクトのゴールイメージを明確にし、目指すべき方向を明らかにしていく必要がある。
7	(特)シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 NPO等のファンドレイズ推進ネットワーク構築事業	NPO等のファンドレイズ(資金開拓)担当者の情報交換サイト構築、研修用テキスト作成、学習会・講習会・特別セミナーの開催などを行い、ファンドレイズ担当者による情報共有のネットワークを構築する。	10,000	II 820	・本事業の実施過程から、日本ファンドレイジング協会が設立されただけでなく、地方の中間支援組織などでもファンドレイズへの関心が高まった。 ・今後事業を行うさいにファンドレイズに関する取り組みを、シーズ、日本ファンドレイジング協会と役割分担を明確にして推進する必要がある。
⑧	(特)自殺対策支援センターライフリンク等 自殺総合対策推進事業	①自殺総合対策の「都市型モデル」構築事業(3カ所)、②自殺対策推進役育成のための連続講座の開催、③自殺対策研修教材ビデオ作成事業、④自殺総合対策提言事業、自死遺族支援フォローアップ事業、⑤自死遺族支援事業を実施する。	70,000	II 810	・前例にとらわれない助成によって、国への影響や、民間団体の創出という成果をあげることができた。 ・国の行う自殺対策事業との差別化や、独自の助成方針の確立が日本財団に求められる。
9	(社)日本船用工業会 基盤整備	造船・船用産業に係る当工業会の基盤強化を図り、我が国、船用工業の発展に寄与する。	59,200	II 765	・我が国の船用産業及び会員企業の発展に貢献するという明確なミッションのもとに、環境変化に対応しながら事業を構築し、実績をあげてきた。 ・会員企業の規模が極めて多様であることから、会員企業の規模に応じた事業に取り組んでいくことが望まれる。

※レベル … I(850～)=卓越した水準にある II(750～)=優秀な水準にある III(650～)=良好な水準だが、一部問題がある IV(550～)=一応の水準にあるが、かなりの問題がある V(～549)=多くの問題がある